



思川だより

令和2年7月15日 第73号

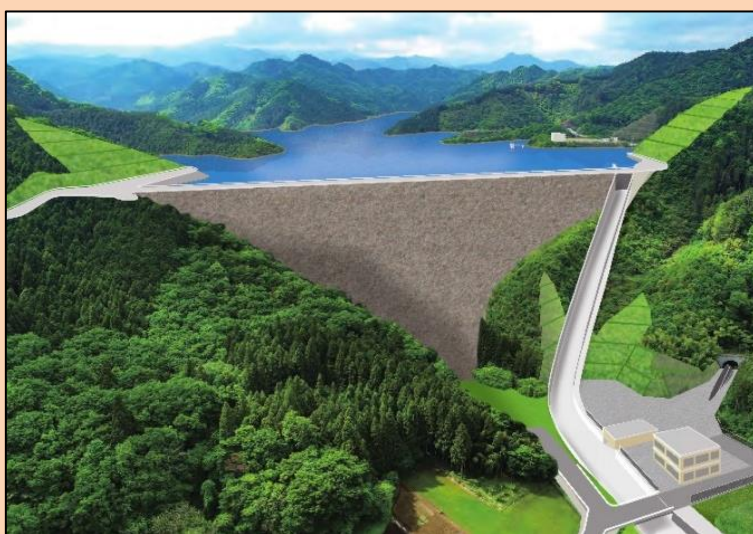


「南摩ダム本体建設工事」に向けた手続き（入札公告）を開始しました

水資源機構では、令和2年6月30日に、「南摩ダム本体建設工事」の工事発注に向けた手続きを開始しました（入札公告を行いました）。住み慣れた故郷から移転して頂いた皆様、土地をお譲り頂いた皆様、地元地域の皆様及び関係機関の皆様の多大なるご協力とご理解を賜りましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。

今後は、令和2年11月に工事受注者が決定し、順次、ダム本体工事に着手して参ります。

令和6年度の事業完了に向けて、周辺環境の保全や地域の安全に配慮しながら、工事を進めて参ります。引き続き、当事業へのご理解とご協力、よろしくお願いいたします。



南摩ダム完成イメージ図

ダム貯水池への注ぎ口&送水時の中継地点 南摩注水工！

令和2年7月現在、当建設所では付替道路の新設工事11件、ダム本体の準備工事1件、導水施設工事2件を実施しています。

今回は、昨年度から開始した「思川開発導水路工事」で施工する「南摩注水工」を紹介させていただきます。

南摩注水工は、黒川及び大芦川から取水した水を南摩ダム貯水池へ注ぎ込むための重要な施設です。また、黒川及び大芦川の水が不足した際には、ダム貯水池の水を送水する中継地点^{たてこう}になっています。その構造は、立坑と呼ばれる内径15m、深さ約41mの円筒形であり、これを造成するために、地下に向かって土や岩を掘削していく必要があります。施工地点は非常に硬い岩盤ですが、地下水により大きな水圧がかかるため、その対策が必要になります。

これに対応する工法として「ニューマチックケーソン工法」を採用しています。

工事の状況は思川開発建設所HPからご覧いただけます。

<http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/kouji/index.htm>

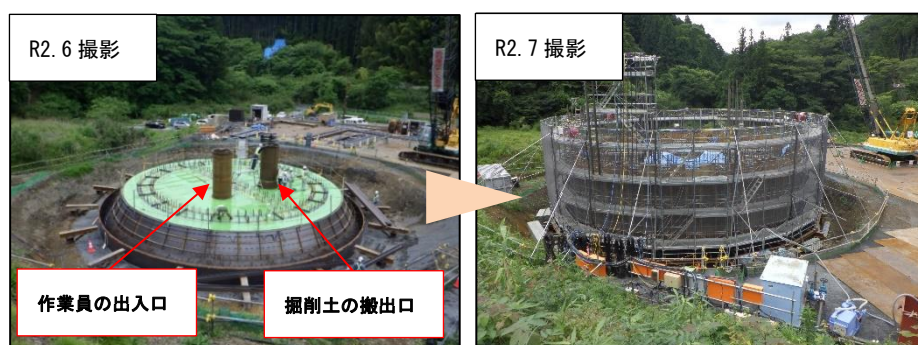


思川開発事業位置図

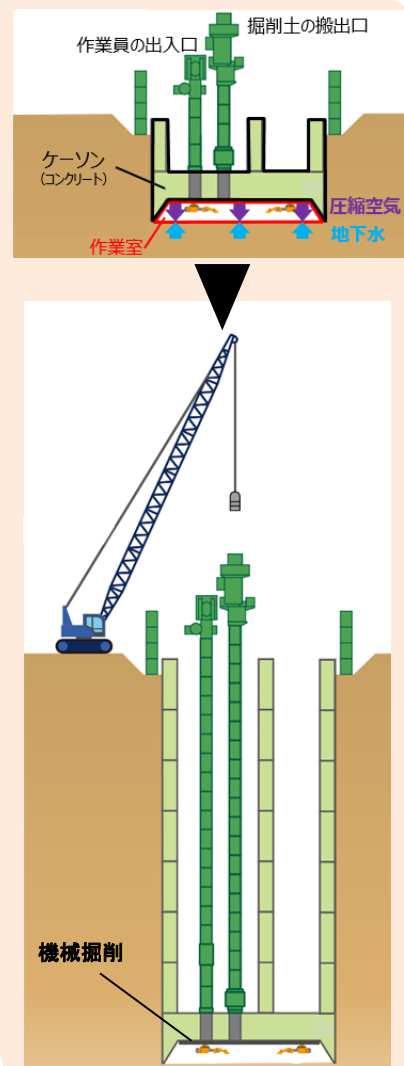
この工法では、以下の様な手順で立坑を造成していきます。

- ①地上で掘削を行うための作業室を含むコンクリート製のケーソン（^{はこ}函）を作ります。
 - ②最下部の空間に地下水圧と同等の圧縮空気を地上から送り込むことで、作業室内への地下水の流入を防ぎます。
 - ③地下の岩盤掘削を少しずつ行いながら、地上で作ったケーソンを降下させます。
- 一定の深さ以上になると、大きな圧力下での作業となるため、地下の掘削は、遠隔操作による機械掘削になります。

左下の写真は、6月に撮影した現地の状況写真です。中央に見える宇宙船のような構造物が、コンクリート打設を行う前のケーソンの型枠です。これから、この上にコンクリートを打設して、右上の図にあるケーソンを作ります。コンクリートが固まるとその下に、掘削作業を行う空間（作業室）が形作られます。この際には、コンクリートミキサー車40台を往復させて、1日で打設を完了させます。



南摩注水工（立坑）全景（令和2年6月、7月）



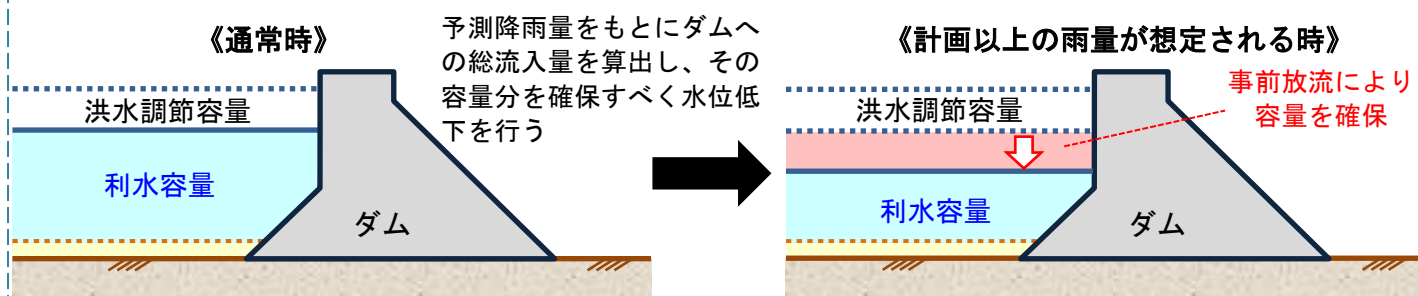
南摩注水工（立坑）は、来年5月の完成を目指しています。完成後は、前号で紹介した「シールドマシン」を立坑の底に下ろして、導水路トンネルの掘削を開始する予定です。

ダムの豆知識 16

<事前放流 ～ダムの容量を最大限活用～>

最近、「事前放流」という言葉を耳にすることはありますか？近年の異常豪雨の頻発化に備えて、現在、国を挙げて取り組んでいます。

事前放流とは、あらかじめ大雨が予測された場合に、すでに確保している洪水調節容量に加えて、ダムの利水容量に貯留している水の一部を事前に放流し、洪水調節に活用できる容量をより多く確保する操作です。事前放流の実施にあたっては、下流河川において急激な水位上昇が生じないよう安全な放流量で行います。



※利水容量：水道、農業、工業用水などの水を貯めておく容量

※洪水調節容量：上流からの洪水を一時的に貯め、下流に流す水の量を減らすための容量

（各説明文は、国土交通省のHPより引用・編集）

アユ釣り解禁！



黒川、思川、大芦川などで、今年もアユ釣りが解禁となりました。

黒川流域(黒川漁業協同組合)は6月6日(土)に、思川流域(小倉川漁業協同組合)は6月21日(日)に解禁日を迎えました。

解禁日にそなえて両漁業協同組合では多くのアユの放流を行い、解禁初日から腕を競い合う太公望たちで賑わっています。

まだまだシーズンが続きますので、おいしい清流アユを求めて、ぜひ皆様も釣りに出かけられてみてはいかがでしょうか。



清流アユ

再発見！鹿沼の魅力（第16回）

【鹿沼の彫刻屋台】

今回は、2016年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録された「鹿沼今宮神社いまみやじんじや祭の屋台行事(通称:鹿沼秋まつり)」に登場する彫刻屋台を紹介します。

彫刻屋台は、祭礼時に踊りなどを乗せる移動舞台から発展し、歌舞伎などの背景舞台に相応しい金箔や彩色彫刻で飾られました。その後、幕府による天保の改革などの取締りが行われると、屋台は白木彫刻で飾り、おはやし囃子を乗せて神様へ奉納する形へと変化し、現代に受け継がれてきました。

毎年10月第2土日の今宮神社例大祭では、20台を超える屋台が神社へ集結し、日頃の感謝や安寧あんねいを願い、お囃子を奉納するほか、市街地で屋台揃い曳きが行われ、交差点では「ぶっつけ」と呼ばれるお囃子の競演が見られます。お祭り期間中の2日間は街中にお囃子が響き渡り、祭り一色となります。

今年の「鹿沼秋まつり」は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、残念ながら中止となってしまいましたが、「屋台のまち中央公園」「木のふるさと伝統工芸館」「仲町屋台公園」「文化活動交流館」では、一部の屋台が通年展示され、中央公園を除く3館では無料で見学することができます。



上材木町の屋台



天神町の屋台

* 写真は、文化活動交流館展示中の屋台

詳しくは、鹿沼秋まつり実行委員会のHPをご覧ください。<https://www.buttsuke.com/>

上南摩の動植物 “シュレーゲルアオガエル”



- 和名:シュレーゲルアオガエル ○学名:*Rhacophorus schlegelii*
- 科名:アオガエル科
- 分布:栃木県内では、北部から南部まで比較的広い、主に標高100m～300mの丘陵地に多く分布しています。
- 栃木県:準絶滅危惧(Cランク) ○環境省:指定なし

全長は 30mm～50mm ほどで、目の前後に黒い線がないことや皮膚が滑らかであることより、ほかの種と区別ができます。

4月から6月に、白い泡状の卵塊を水辺の地中に産みます。卵は約1週間でふ化し、約1か月半で変態上陸をします。水田・池・沼・湿原といった土が軟らかいところで産卵し、非繁殖期には周辺の樹林地で生活しています。また、「シュレーゲル」という名前は、ドイツ人動物学者の名前(ヘルマン・シュレーゲル)に由来します。

(出典:レッドデータブックとちぎ 2018 改訂版)



シュレーゲルアオガエル

(R2.6 撮影)



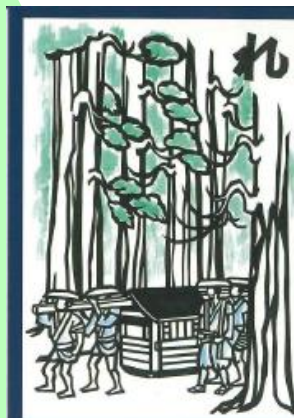
栃木県内の地元かるたを用いて、様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。引き続き、『下野かるた』(栃木県文化協会発行)からの紹介です。

＜ 例幣使街道の杉並木 ＞

いよいよ夏本番となりますね。今号では、夏の暑さが和らぐ涼しげな1枚をご紹介します。

日光の例幣使街道の両側には太く大きな杉並木が続きます。この杉並木は、日光東照宮が造営された際に植樹され、東照宮に寄進されたものです。

緑と木陰に囲まれた景色は、夏の暑さを和らげてくれそうです。是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。



編集後記

○かき氷を食べたくなる季節がやってきました！有名なのは、日光の天然氷のかき氷・・・ですが、実は鹿沼でも食べられるお店があるようです。

○今年は夏もマスクが手放せず、いつもより暑い夏になりそうですが、体調管理に気をつけて乗り切ってください！

お知らせ

▼見学会の実施や工事状況等の詳細については、お電話またはHPをご覧ください！

(※現在、見学会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実施を見合わせております。)

▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.htm>

思川開発

検索

